

iCONM ニュースレター

2023年度 夏号

第一四半期（4月～6月）の活動報告

目次

ご挨拶	p. 3
ハイライトニュース	p. 4
発表論文 (2023年4月～6月)	p.10
コラム	p.13
実施済みイベント (2022年4月～6月)	p.15
イベント予告	p.16
編集後記	p.17

ご挨拶

日頃よりナノ医療イノベーションセンター (iCONM) の活動にご興味をお持ちいただき、心より感謝申し上げます。2023年度夏号のiCONMニュースレター発行にあたり、ご挨拶させていただきます。

iCONMでは、これまで取り組んできた「体内病院」研究に加えて、昨年度から開始した「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」の実現を目指すプロジェクトCHANGEの活動が軌道に乗り始めました。革新的なナノテクノロジーの活用を追求しながら、医療現場での課題解決に直結する研究開発を通じて、医療システムの質の向上と患者ケアの充実を目指しています。

また、コロナ禍が落ち着き、海外からの研究者の受け入れや国内外の機関からの視察が活発化してきました。iCONMでは、国際的な研究者ネットワークを構築し、知識とアイデアの交換を通じてイノベーションを創出する場を築いており、異なる文化やバックグラウンドを持つ方々との対話によって、より多様な視点からのアプローチを取り入れることができるようになりました。

本ニュースレターを通じて、上記の取り組みに対するご理解をいただくとともに、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2023.8.1.

iCONM センター長、東京大学名誉教授 片岡一則

ハイライトニュース①

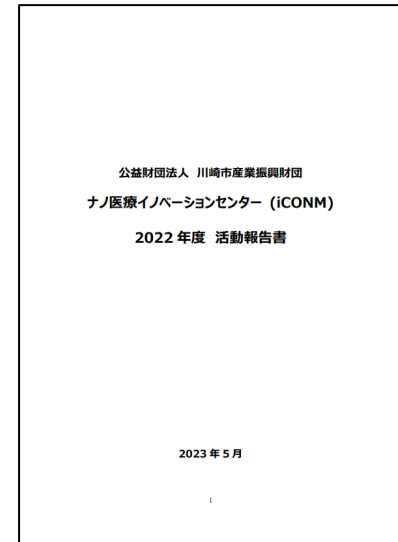
iCONMのパフレットを刷新し、プロジェクトCHANGEのパフレットを製作。
iCONMの2022年度活動報告書を発行しました。



iCONMパンフレット



プロジェクトCHANGEパンフレット



2022年度 活動報告書

ハイライトニュース②

朝日新聞社の言論誌「論座」にこれまで寄稿した記事（5報）を、編集局の了解の下、iCONMのホームページで公開しました。

https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/activities_column.html

- ① 「ナノDDS」研究のグローバルセンターへ / 片岡一則（iCONM センター長）
- ② 若者の科学リテラシーを鍛える場に / 島崎 眞（iCONM コミュニケーションマネジャー）
- ③ 「看病」を超え、病前後の人も見る「看民工学」のススメ / 一木隆範（iCONM 研究統括・東大マテリアル工学教授）
- ④ 多様な人材が「化学反応」を起こす / 永井浩二（iCONM副センター長）
- ⑤ 難治がん克服のためのナノ医療 / サビーナ・カデル（iCONM副主幹研究員）

論座 R O N Z A 科学・環境

ナノ医療イノベーション/iCONMからの発信

1. 「ナノDDS」研究のグローバルセンターへ

出島に集まる好学者① 異分野へ「越境」する好奇心

片岡 一則（公財）川崎市産業振興財団副理事長、iCONMセンター長、東京大学名誉教授

江戸時代。200年以上続いた鎖国下の日本で唯一、西欧との貿易に開かれていた「出島」。海外からの情報や知識を得ようと、その地に集まった好学者は決して少なくなかっただろう。そして現代。「大学の出島」というものがある。いわば、大学の出先機関ではあるが、本体と切り離して企業との共同研究を行いやすくさせようと、内閣府・総合科学技術イノベーション会議（CSTI）で2019年に提案されたものである（「我が国の研究力強化に向けて」を参照）。

論座 R O N Z A 科学・環境

ナノ医療イノベーション/iCONMからの発信

3. 「看病」を超え、病前後の人も見る「看民工学」のススメ

出島に集まる好学者③ 手と目が頼りの看護界に越境する工学者

一木 隆範（公財）川崎市産業振興財団 iCONM主幹研究員、東京大学教授

私は現在、「ナノ医療」の研究をしている。典型的な異分野融合^{2022年08月14日}の研究だ。物質合成の研究で学位を得た後、半導体の微細加工の分野で研究者としてのキャリアを始めたが、これらの知見をバイオ分野に应用于して病院検査室の機能を小型のチップ上に再現する技術開発を行っている。

病気が発症する前に早期に発見し、治療に繋げることができれば、医療費が抑えられ、生活者の健康に貢献できる。予防医療の実現に向けた研究である。

昨今、川崎市の地元の看護協会や看護大学の方々と意見を交換する機会を頻繁に持つようになった。医工融合分野の研究を進める際に医学研究者や医師との連携は不可欠だ。一方で、医療において重要な役割を果たしている看護ケアの担い手との協働の可能性に思いが至らなかったことに今更ながら気づき、「看民工学」を掲げて新たな融合への一歩を進めようとしている。

ハイライトニュース③

片岡一則センター長が第34回向井賞を受賞。

<https://www.tok-foundation.or.jp/activities/mukai.html>

向井賞は、基礎研究または応用研究の分野において、先駆的かつ独創的であり、科学技術の振興に貢献することが期待される研究を行った研究者を対象として、公益財団法人東京応化科学技術振興財団が贈呈する賞です。5/22に授賞式と受賞講演が川崎市内で催されました。

対象となった業績：

高分子合成化学に立脚した新規薬物送達システムの開発

受賞理由：

最近の医薬品開発は、従来からの低分子医薬に加えて、抗体などのバイオ医薬品や遺伝子・核酸・ペプチド医薬など、益々多彩となってきており、その多くが生体内分布の適正化と標的細胞・臓器に対する選択性向上という課題に直面している。片岡一則氏は1980年代から一貫して、このような困難な課題を解決するための薬物送達システム（DDS）の開発に取り組み、親水性の高分子鎖と水に難溶性の高分子鎖とを連結したブロック共重合体の分子設計とその秩序立った会合体（高分子ミセル）形成に基づいて、抗がん剤や核酸医薬のDDSとして臨床に用いられるまでに至る数々の薬物運搬体の創製に成功した。このような片岡氏の業績は、現在、国内外の多くの大学や企業において展開されている高分子ミセル型DDS開発の嚆矢となるものであり、「向井賞」の受賞に値するものと認められる。



ハイライトニュース④

2023年度 入職者 歓迎会を対面で開催。

5/24、新年度に入職した研究者および管理職員の歓迎会が、3年ぶりに対面で開催されました。



ハイライトニュース⑤

グザビエ・エマニュエリ博士が iCONM に来所。

5/30「国境なき医師団（1999年ノーベル平和賞）」、「SAMUソシアル」の創設に関わり、ジャック・シラク大統領の政権下では緊急人道支援担当相も務めたグザヴィエ・エマニュエリ (Xavier EMMANUELLI) 博士が、フランス大使館の方々とともに来訪しました。エマニュエリ博士は、近年の社会的弱者、特に高齢者の社会における課題に懸念を持っており、当センターが中核機関として推進する「プロジェクトCHANGE」の取り組みについて、強い関心を示したとのことでした。

プロジェクトメンバーからの説明とディスカッションを通じて、本プロジェクトが目指す「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」について理解を深めたのち、産学官連携によるオープンイノベーションが展開されている現場を視察致しました。



ハイライトニュース⑥

ナノ医療及び看護ケアイノベーションの推進と普及に関する基本協定を東京大学と締結。

5/31、川崎市産業振興財団は、川崎市とともに、ナノ医療及び看護ケアイノベーションの推進と普及に関する基本協定を東京大学と締結致しました。

本協定により、三者は、世界中に広がる医療とケアに関する多様な学術や技術、モノ、人材といった資源を循環させながら融合し、イノベーションを創出する仕組み（グローバルエコシステム）を形成するなどして、昨秋に文科省/JSTに採択された COI-NEXT川崎拠点（プロジェクトCHANGE）と連動する健康寿命の延伸と新産業の創出に向けた取り組みを推進します。



左から東京大学藤井総長、川崎市産業振興財団三浦理事長、川崎市福田市長

発表論文・叢書 (2023年4月-6月公開)

No.	公開日	論文題目	雑誌名	iCONM主要著者
#7	230519	Stealth and pseudo-stealth nanocarriers https://doi.org/10.1016/j.addr.2023.114895	Advanced Drug Delivery Reviews	A. Dirisala
#6	230511	Cap analogs with a hydrophobic photocleavable tag enable facile purification of fully capped mRNA with various cap structures https://doi.org/10.1038/s41467-023-38244-8	Nature Communications	S. Uchida
#5	230508	Strategic trends of pharmaceutical companies: A growth model through regional focus and inter-regional alliances https://doi.org/10.1016/j.drudis.2023.103611	Drug Discovery Today	S. Sengoku
#4	230501	高分子の精密設計に基づくがん診断・治療用ナノマシンの創製 https://doi.org/10.1248/yakushi.22-00205-4	薬学雑誌	N. Nishiyama
#3	230415	pH-sensitive polymeric micelles loading IL-12 profoundly inflame the tumor microenvironment to eradicate cold tumors https://doi.org/10.1158/1538-7445.AM2023-LB336	Cancer Research	H. Cabral K. Kataoka
#2	230406	Ligand Installation to Polymeric Micelles for Pediatric Brain Tumor Targeting https://doi.org/10.3390/polym15071808	Polymers	H. Cabral Y. Anraku
#1	230405	Efficient mRNA Delivery with Lyophilized Human Serum Albumin-Based Nanobubbles https://doi.org/10.3390/nano13071283	Nanomaterials	K. Itaka

過去の論文記録は以下のサイトから閲覧できます。 <https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/activities.html>

発表論文・叢書 (2023年4月-6月公開)

No.	公開日	論文題目	雑誌名	iCONM主要著者
#13	230610	mRNA vaccine induces protective immunity against the type III secretory virulence of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> https://doi.org/10.1101/2023.06.09.544431	BioRxiv	S. Uchida
#12	230609	Multi-Armed Star-Shaped Block Copolymers of Poly(ethylene glycol)-Poly(furfuryl glycidol) as Long Circulating Nanocarriers https://doi.org/10.3390/polym15122626	Polymers	Y. Anraku H. Cabral
#11	230608	Terbium-Rose Bengal Coordination Nanocrystals-Induced ROS Production under Low-Dose X-rays in Cultured Cancer Cells for Photodynamic Therapy https://doi.org/10.1021/acsabm.3c00304	ACS Applied Bio Materials	Y. Mochida K. Miyata
#10	230601	A polyaniline/polyvinyl acetate composite film electrode for highly sensitive electrochemical sensing of pH https://doi.org/10.1016/j.synthmet.2023.117380	Synthetic Metals	H. Takehara T. Ichiki
#9	230601	神経疾患へのmRNA医薬応用 https://www.kahyo.com/product/detail/S202306	脳神経内科	K. Itaka
#8	230525	Curcumin and Colistin are Synergistic in Inhibiting the Growth and Biofilm Formation of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> Isolated from Environmental Sample https://doi.org/10.29011/2577-1515.100218	Infectious Diseases Diagnosis and Treatment	A. Dirisala

発表論文・叢書 (2023年4月-6月公開)

No.	公開日	論文題目	雑誌名	iCONM主要著者
#19	230628	Global biomarker trends in Alzheimer's research: A bibliometric analysis https://doi.org/10.1016/j.drudis.2023.103677	Drug Discovery Today	S. Sengoku
#18	230625	中枢神経系を標的としたmRNA医薬のDDSと治療応用 https://doi.org/10.2745/dds.38.125	Drug Delivery System	S. Uchida
#17	230624	Polyplex Designs for Improving the Stability and Safety of RNA Therapeutics https://doi.org/10.1016/j.addr.2023.114972	Advanced Drug Delivery Reviews	S. Uchida K. Miyata
#16	230620	Enhancement of bone regeneration by coadministration of angiogenic and osteogenic factors using messenger RNA https://doi.org/10.1186/s41232-023-00285-3	Inflammation & Regeneration	K. Itaka
#15	230619	Relationships between physical and immunological tumor microenvironment in pancreatic ductal adenocarcinoma https://doi.org/10.1111/cas.15853	Cancer Science	H. Cabral
#14	230614	Adsorption of l-buthionine sulfoximine on Bi(III) and Eu(III) co-substituted hydroxyapatite nanocrystals for enhancing radiosensitization effects https://doi.org/10.1016/j.colsurfb.2023.113403	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces	Y. Anraku

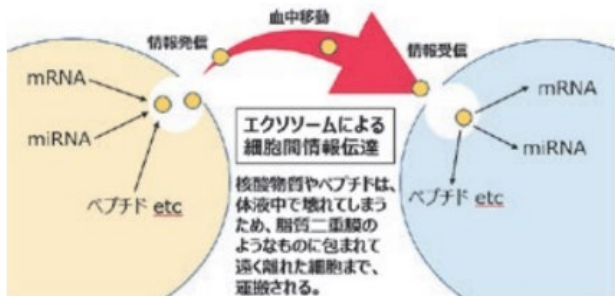
iCONMコラム

iCONMコラム⑪ 「エクソソーム」 東大・一木隆範 先生 監修

iCONMコラム⑪
組織運営には領域を超えた
コミュニケーションが必用

生物の構成単位となる「細胞」。それが集まり、皮膚や血管、神経などといった様々な組織を構成し、それぞれ違った役割を担います。組織が異なれば、細胞も見た目からして別モノとなりますが、全身のすべての細胞は同一の遺伝情報を持っています。昨年の本誌8月号でmRNAの話を紹介しました。mRNAは細胞内にある遺伝情報を部分的に読み取り、組織の役割毎に必要な機能性タンパク質を合成します。つまり、組織が異なれば、そこに作られるタンパク質も異なります。よって多細胞生物では、これら異なる組織間でのコミュニケーションが円滑に進み、互いが協働して機能する必要があります。では、遠く離れた細胞同士はどのようにコミュニケーションを取っているのでしょうか？

1990年代はじめ、mRNAから部分的に切り出された小さなRNA鎖が存在することが分かりました。マイクロRNA (miRNA) と呼ばれるこの核酸物質は、最初こそmRNAの編集過程で生じるゴミと考えられていたものの、後に、RNAと相互作用を起こし、その遺伝情報の伝達機能を制御していることがわかりました。そして、2007年、細胞が放出する100nm程度の小胞 (エクソソーム) にmiRNAが包まれていることがわかり、それが離れた場所の細胞に取り込まれてmRNAの働きを制御するという遺伝子レベルでの細胞間コミュニケーションの仕組みの発見に繋がりました。特に、がん化によって分泌されるエクソソームは、遠隔転移とも関連することが知られており、がんの早期診断や転移抑制についての研究開発が進んでいます。さらには神経疾患や循環器疾患など多くの疾患や老化の過程においてエクソソームの関与が想定されており、次世代の治療法の開発に繋がるものとして期待されています。
(監修：東京大学大学院工学系研究科 一木 隆範 教授)



エクソソームを介した遠隔細胞への情報提供



エクソソームの精製法について語る一木教授

<お問合せ先>



公益財団法人 川崎市産業振興財団

ナノ医療イノベーションセンター

TEL : 044-589-5700

iCONM 検索

積極的に情報発信中！
今すぐアクセス！

HP

YouTube

Twitter

iCONMコラムは、「産業情報かわさき」誌の偶数号に掲載。
同誌のバックナンバーは、以下のサイトから閲覧できます。

<https://kawasaki-sanshinkaikan.jp/youmu/jyouhou/report.html>

iCONMコラム⑫ 「グローバル・パートナーシップ」 iCONM サビーナ・カデル 副主幹研究員

iCONMコラム⑫
プロジェクトCHANGE 国際展開を見据えて



サビーナ・カデル副主幹研究員

iCONMに在籍する91名の研究者のうち、2割は外国籍です(2022年度)。彼らを束ねるのが在籍12年のサビーナ・カデル副主幹研究員。これまでに90名近い外国籍研究員がiCONMを卒業し、世界各国で活躍しています。サビーナさんはバングラデシュの出身で、オーストラリアのグリフィス大学で博士号を取得後来日しました。iCONM設立当初より、抗がん剤搭載ナノマシンに関する研究実績を重ねながら、海外の研究機関や研究者をつなぎ、留学生等のマネジメントにも積極的に関わっています。多様な考え方や経験を基に議論が交わされる環境は研究の競争力を高める大切な要素ですが、サビーナさんの貢献によりiCONMでは人材のダイバーシティとインクルーシブな環境づくりが進みました。例えば、異文化・異分野のコミュニケーションを活性化するためのワークショップでは、外国籍研究者をリーダーとするグループを7つ作り、「リーダーの出身国でiCONMをPRするには？」というミッションのもと意見を出し合いました。これは、それぞれの国の文化や習慣を理解する機会となり、大変好評でした。その後も事務局スタッフと外国籍研究者が交流する機会が設けられています。

多様性の点で心がけていることをサビーナさんに尋ねると、「皆それぞれの色を持っています。様々な絵の具があるからこそ素晴らしい作品を描けます」と、各人の個性を大切にしているとのこと。さらに、このような経験が自身の研究にプラスになるとサビーナさんは続けます。「様々な背景を持つ人たちと交流することは好きです。気持ちがリフレッシュされ、研究により集中できます。専門性が広がることで自分自身の成長にもつながります」

2018年に国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) がスペイン研究開発イノベーション庁とともに公募した事業では、サビーナさんのチームの提案が採択されました。脳腫瘍や肥満の治療に関する研究をスペイン・カタルーニャ国際大学との共同研究として実施しており、昨年4月には同学と連携協定を結びました。

そしてこの度、サビーナさんはグローバル・パートナーシップの主担当としてプロジェクトCHANGE*の研究推進機構にも加わりました。同プロジェクトの国際展開における活躍が期待されます。

*プロジェクトCHANGE:
<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>



カタルーニャ国際大学 (スペイン) のロドリグス准教授 (左) とサビーナさん (右)

<お問合せ先>



公益財団法人 川崎市産業振興財団

ナノ医療イノベーションセンター

TEL : 044-589-5700

iCONM 検索

積極的に情報発信中！
今すぐアクセス！

HP

YouTube

Twitter

看民工学®コラム

看民工学コラムは、「産業情報かわさき」誌の奇数号に掲載。
同誌のバックナンバーは、以下のサイトから閲覧できます。

<https://kawasaki-sanshinkaikan.jp/gyoumu/jyouhou/report.html>

看民工学コラム⑦「市立看護大学について」 荒木田 美香子 先生（川崎市立看護大学 副学長）

看民工学 看民工学コラム⑦
川崎市立看護大学 副学長・学部長
荒木田 美香子



川崎市立看護大学は2022年4月に開学しました。ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) とは、それ以前の2021年秋ごろより同じ川崎市内の公的研究機関ということで連携を取ってきました。川崎市看護大学は教育機関であるとともに、研究機関でもあり、看護学、看護の実践の発展に寄与する知的活動を行うところです。しかしながら、単科大学であるという弱点は無視できません。他分野と協働できるという意味で、iCONMが打ち立てる看民工学は本学にとっても、貴重な場であり、魅力的な存在です。

今回、iCONMを中核機関とした「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点」(CHANGE) が文部科学省の「共創の場形成支援プログラム」に採択されました。本学も申請書作成の段階からチームの一員として、プロジェクトCHANGEの活動に積極的に関わっています。

本学はCHANGEの中でも、看護職の業務をより快適に行うため改革、支援（看護師の業務の改革）を行う役割を担っており、14名の教員とチームを組んでいます。チームのメンバーではこの組織を Kawasaki City Nursing Care System and Tool Lab (通称、川崎ナースングラボ) と称し、3つのことを進めていこうと考えています。

その1：看護師や看護学生の身体的・精神的ストレスの評価を行い、その解決に向けた具体的な方法を検討し、周知していくことです。

その2：病院はもとより地域で働く看護師も、ケアが困難な事例と遭遇し、どうしたらよいのだろうと悩む経験をしています。このような問題はお互いが知恵を持ち寄り、対策を考えたり、相談になってもらったりすることで困りごとの壁に風穴を開ける

ことができます。そこで、ケア困難事例を持ち寄り、事例検討を行う中で、対策を洗い出し、それらの課題と解決に向けた方法をデータベース化し、広く現場の看護職に使用してもらえるようなものを作成するとう、看護職を孤立させないための一つの方法を検討することです。

その3：CHANGEにおいては、工学系の研究者により、看護ケアに有益な様々な機器の開発が期待されています。既にある機器の活用も視野に入っています。例えば、モバイルの超音波機器等既に開発されており、看護実践での効果は確認されているが、普及が十分ではない機器もあります。そういった看護実践で活用できそうな機器を準備し、地域の看護職向けの研修で普及を図り、最終的には看護職の負担軽減、看護実践の向上、患者・家族のQOLの向上につながるような活動を行っていくことです。

壮大な企画ではありますが、本学の若手教員のエネルギーで進んでいきます。これらの研究で得られた成果は、看護学教育にも実践においても、新たな視点を提供するものになるものと信じています。

川崎市立看護大学 学長 坂元 昇
Kawasaki City College of Nursing

「医療機関はもとより地域の様々な場で活躍することができ、地域包括ケアシステムに資する人材」の養成を目指す川崎市で初めての市立大学です。

住所：〒212-0054 川崎市幸区小倉4丁目30番1号

TEL：044-587-3500

HP：<https://www.kawasaki-cn.ac.jp/>

【このコラムに関する問い合わせ先】

iCONM 公益財団法人 川崎市産業振興財団
Innovation Center of NanoMedicine
ナノ医療イノベーションセンター
看民工学事務局 E-mail iconm-kmkproject@kawasaki-net.ne.jp
TEL：044-589-5700

iCONM

検索

看民工学コラム⑧「病院の地域連携室について」 福永ヒトミ 先生（日本医大武蔵小杉病院 副院長 兼 看護部長）

看民工学

看民工学コラム⑧
病院と地域診療のバトンゾーン～地域連携を担う看護師
日本医科大学武蔵小杉病院 福永ヒトミ副院長 兼 看護部長、小野寺恵子 看護師長、
小駒絵織 退院調整看護師

CHANGE

看護師というとベッドサイドで患者の世話をしているイメージが強くありますが、実は他にも様々な仕事があります。入退院の調整業務もそのひとつ。日本医科大学武蔵小杉病院の福永ヒトミ副院長 兼 看護部長に同院で地域連携業務を担う「医療福祉支援室」の役割について伺いました。

ひとりの患者が入院して退院するまでの日数（在院日数）は、年々短縮されています。同院でも一般病棟の平均在院日数は8.8日とのこと。30年前の約1/3です。腹腔鏡手術など医療技術の進歩はその一因ですが、加えて、超高齢社会における要入院患者の急増があげられます。在院日数が短いことで、完治していない状態で退院することも多く、地域の医療施設あるいは在宅で継続的に適切な治療を受けられるように退院調整を行うことが重要です。同院では、その役割を「医療福祉支援室」が担っており、ソーシャルワーカー・退院調整看護師11名がその業務にあたっています。退院調整は、患者の状態だけでなく、様々な生活環境や価値観に合わせた退院後の療養環境の調整を行います。中には、患者の思いと家族の希望が異なるケースも少なくなく、患者さんご家族にとって最良の方法に至るよう話し合いを重ねていきます。さらに、同居家族が未成年や高齢者などの患者さんに対しては、介護者の介護力や負担を加味して、療養環境の選択を行っています。

このような役割を担っていく中で、退院調整看護師にとって、ご本人とご家族が望む退院後の暮らしを実現できたときの喜びはヒトシオで、そのときの笑顔が支えになっているそうです。今の質を維持しつつ労働負担を軽くできる道具やシステムがあれば介護環境の改善が望めると考えられ、プロジェクトCHANGEへの期待も大きいです。特に退院後の受け入れ先とのコミュニケーション

ョンを、タイムリーに円滑に行えるような技術へのニーズが高いことがわかりました。

最後に、市民の皆様へのご協力のお願いとしてひと言頂きました。『よりよい医療を提供するために病院と診療所が適切な役割分担のもと、患者さんを紹介しあう仕組みの「病診連携」を活用していただきたいと思います。そうすることで、病院の混雑の軽減や重症患者の受け入れが行いやすくなり救急隊の医療機関への選定も短縮され患者さんへの負担軽減に繋がると考えます』



日本医科大学武蔵小杉病院 福永ヒトミ副院長 兼 看護部長 (中央)
ご同席いただいた小野寺恵子 看護師長 (左)、
小駒絵織 退院調整看護師 (右)

【このコラムに関する問い合わせ先】

iCONM 公益財団法人 川崎市産業振興財団
Innovation Center of NanoMedicine
ナノ医療イノベーションセンター
看民工学事務局 E-mail iconm-kmkproject@kawasaki-net.ne.jp
TEL：044-589-5700

iCONM

検索

実施済イベント (2023年4月～7月)

第8回学術セミナー (座長：片岡一則)

日時：2023年5月19日 14:30開演
場所：On-line 開催

演題：酸素センシング調節機構を標的とした
がん・炎症疾患の制御

講師：坂本 毅治 先生
iCONM 客員研究員
関西医科大学附属生命医学研究所
学長特命教授



市民公開講座

公益社団法人 川崎市看護協会 共催
iCONM/CHANGE 市民公開講座

訪問看護師って何をする人？
訪問看護ステーションってどんなところ？

「訪問看護ステーション」ってご存じですか？在宅での看護を行う看護師(訪問看護師)は、ご自宅に訪問して、在宅療養者ご本人のケアだけではなく、ご家族のサポートなども行っています。もっと訪問看護ステーションについて知って欲しい、活用して欲しいという願いから企画しました。ぜひご参加ください。

参加費無料 途中入退室自由

日時 2023. 5.27 (土)
13:30～15:30

場所 Zoomウェビナーによる
オンライン会議室

対象 どなたでもご参加いただけます。
お気軽にお申込みください。

申込み 下記のフォームより
お申込みください。
締切:5.24(水)12:00
<https://forms.gle/tQ3QKWClrAPxLWV6>

QRコード

問合せ ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)
市民公開講座担当
TEL: 044-589-5700
Email: iconmpubliclecture@kawasaki-net.ne.jp
iCONM 共催

基調講演 13:35～14:15
「その人らしく生き、近く」を支える訪問看護
～訪問看護師は、在宅療養者と家族の作業者～
阿部 直美 ボリス訪問看護ステーション管理者
訪問看護認定看護師 / 神奈川訪問看護ステーション協会(旧博ブロッコ)代表
訪問看護ステーションの役割と、そこに勤める看護師の仕事先について
分かりやすく説明します。在宅療養の方は知照、ケアするご家族の理解
の助けとなること私たちの役目です。

パネルディスカッション 14:20～15:25
療養者それぞれが望む生き方に応じた在宅ケア
～病院・薬局とのフレキシブルな連携体制～

話題提供
保科 かおり 聖マリアンナ医科大学病院 看護師長
メディカルサポートセンター 入職実業
退院後は患者さんひとりひとりの生活環境に合わせた在宅ケアが
必要です。訪問看護師との協定な連携の重要性についてお話しします。
篠田 豪 中原区薬剤師会 理事
マンゼン薬局 代表取締役
在宅療養者のほとんどが何らかしらの薬剤を服用されています。
訪問看護の場で連携している薬剤師の役割についてご紹介いたします。

モデレーター
●島崎 真 CHANGE副プロジェクトリーダー(連携推進)
iCONMコミュニケーションマネージャー

パネリスト
●阿部 直美 ボリス訪問看護ステーション管理者
●保科 かおり 聖マリアンナ医科大学病院 看護師長
●篠田 豪 中原区薬剤師会 理事
●一ノ瀬 久美子 訪問看護の連携推進者
●一木 隆範 CHANGEプロジェクトリーダー
iCONM研究員 / 東京大学大学院工学系研究科 教授

主催 iCONM 共催 川崎市看護協会 後援 Colors Future

第9回学術セミナー (座長：片岡一則)

日時：2023年7月14日 14:00開演
場所：On-line 開催

演題：Biomimetic protein bioconjugates
for biomaterials and artificial organelles
design

講師：Prof. Dr. Sébastien Lecommandoux
フランス・ボルドー大学 教授
Biomacromolecules チーフエディター



イベント予告

第10回学術セミナー（座長：片岡一則）

日時：2023年8月22日 15:00開演

場所：On-line 開催

演題：放射性核種を利用した医学研究
日本アイソトープ協会の説明を兼ねて

講師：藤井 博史 先生
日本アイソトープ協会常務理事
国立がん研究センター先端医療開発
センター機能診断開発分野分野長



第11回学術セミナー（予定）

日時：2023年9月14日 10:30開演

場所：On-line 開催

演題：新興技術の社会実装における
ELSI/RRIの重要性（仮題）

講師：松尾 真紀子 先生
東京大学公共政策大学院
未来ビジョン研究センター
特任准教授



編集後記

本日、iCONM ニュースレター 2023年度夏号を配信させて頂きました。四半期ごとの出来事や学術成果を記した本ニュースレターをご覧くださいことで、少しでも私たちの取組に関し理解を深めていただければ幸甚に存じ上げます。

同じキンスカに立地する島津製作所TIPを先日訪れた際、同社が京都にある老舗酒造と提携して日本酒造りを始めたと言いました。伝統的な匠の業に、最先端の分析技術が加わり、風味や酸味、うま味が最適の状態となるよう仕上げた日本酒「源遠流長」の誕生です。看護も、匠の業が受け継がれている職業ですが、杜氏と同じく専門人材が不足しており、理工学の介入がひとつの解決手段となればと思っています。

日本は、少子高齢社会に関して世界のトップランナーです。しかし、それは、日本だけの問題ではなく、近い将来に超高齢社会を迎える国々は少なくありません。プロジェクト CHANGE の成果は、それらの国々に対しても価値のあるものとなるでしょう。

引き続きのご支援とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

川崎市産業振興財団
ナノ医療イノベーションセンター
イノベーション推進チーム
iconm-pr@kawasaki-net.ne.jp

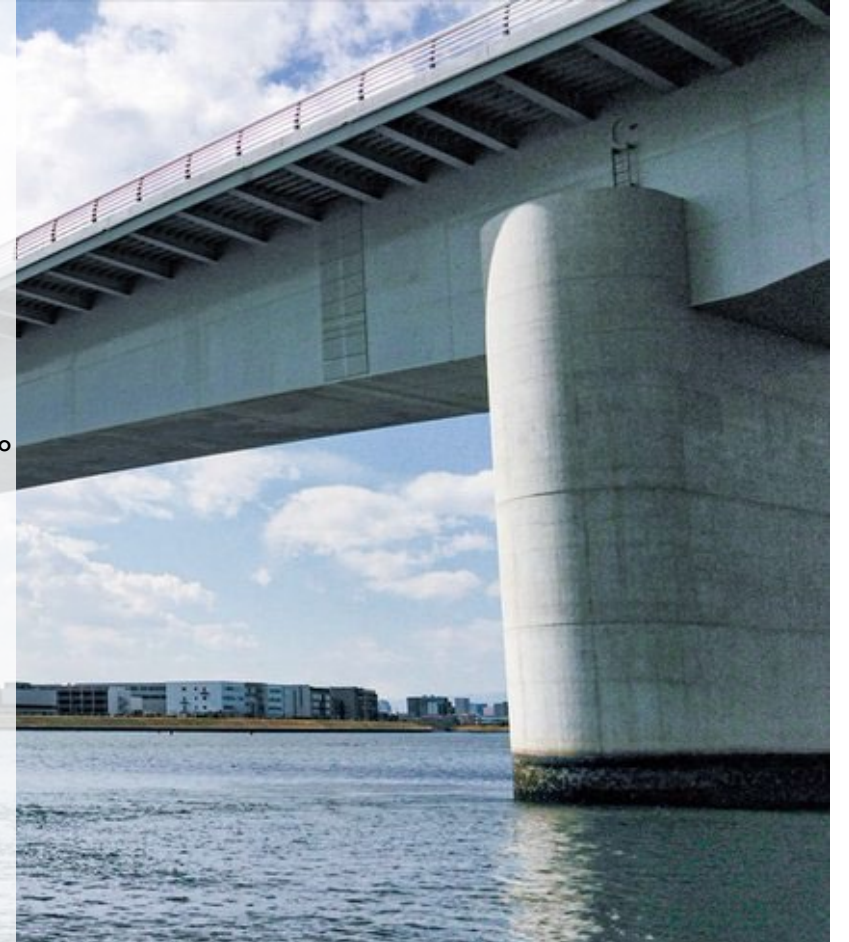


Photo: 多摩川スカイブリッジ (3/12開通)



FOLLOW US!

